番号	10	石丸久光翁殉職之碑　佐賀縣知事　鍋島直紹		
所在地		佐賀市鍋島町蛎久		
災害別		昭和２８年（１９５３）　水害（２８水）		
目的別		顕　彰	建立年	昭和２９年５月
特記事項				

昭和２８年６月の水害で当時蛎久区長として水防活動に従事中、堤防の決潰により殉職された石丸久光氏の殉職之碑が嘉瀬川に架かる渡瀬橋の左岸側に建てられている。

国土地理院　電子国土 Web

「碑文　翁は資性英邁剛健にして風教の淳化道義確立の為率先垂範を垂れ公の為に私事を省みざる憂国の烈士たり。当村蛎久部落に生を享け幼にして軍人志し青島戦争日支事変に数々の武勲を樹て正五位勲三等陸軍工兵中佐に任ぜられる。大東亜戦争終戦後は晴耕雨読自粛自慎の日を送られしが昭和二十七年講和条約の締結により追放の束縛解くるや推されて村教育委員長の要職につき教育行政に腐心する傍ら有志を糾合して同志会鍋島支部の結成を図り又事務嘱託員として部落民の與望

に對へ郷黨の信望を一身に聚めたり。時恰も昭和二十八年六月二十六日前日来の稀有の豪雨により堤防決壊の危険を感ずるや馳せつけし部落民と共に夜を徹し人事を盡せし防護作業の督励指導に当たりしが黎明時より狂気の如き疾風と車軸を流すが如き猛雨の為急激に増水し午前八時四十分遂に奔流は堤防の天端を洗ひ濁水は地響きと共に其の中腹噴出決壊するに至れり。作業員一同は危うく其の難を逃れたるも翁は鬱然として其の最後を見届くべく現場に踏止まる中不運にも数分後百五十米の下流再び決壊し翁は寸断されし堤防上に取り残れ加ふるに狂奔せる激流は刻々其の足下を侵し風前の灯を思わせたるも救出の方途全くなし。斯かる絶対絶命の間従容として動ずる事無く静かに衣を棄て濁流に身を投じ脱出を図られしが怒涛は翁を一呑みし再び其の姿を見出す能はず六十七才を以て生涯の幕を閉じられたり。此の翁の心境や乙橘姫のそれにも比すべく鬼神慟哭震天動地するを感ず。茲に殉職の地を選び水魔の守護神として此の碑を建て且つは翁の懿徳を永えに表彰し之を後世に傳へんとす。」　昭和二十九年五月二十六日　　鍋島村長　池田利夫